

▶ 第4章

「南北協力」から「非核化」への発展なるか ——尹政権「大胆な構想」に関する試論

(公財) 日本国際問題研究所 研究員

飯村 友紀

【ポイント】

- ▶ 韓国の尹錫悦政権は2022年5月の発足以来、北朝鮮抑止のための日米韓安全保障協力を進める一方で、対話を通じた北朝鮮対応についてはアイデア・議論とも十分とはいえない状況にある。
- ▶ 北朝鮮は将来的に「核能力のさらなる向上を背景とした対話姿勢」に再度転じると考えられ、その際には米国が「自国にとっての脅威」への対処を優先し、また日本や韓国の影響力がさらに下がる事態が懸念される。さらに日米韓の分断を図った北朝鮮による個別の揺さぶりも続くだろう。
- ▶ 北朝鮮に対する交渉力を高めるには「圧力」「対話」の両面での日米韓の協調対応がより重要となる。トランプ政権・文在寅政権期の教訓は包括的な「ロードマップ」を構築できなかった点にあり、非核化という目標を実現するためには軍事的抑止と経済的関与を統合した戦略の構築が必要になる。経済協力に政治・軍事分野の合意を連結させた尹政権の対北朝鮮政策「大胆な構想」の可能性（ポテンシャル）は、そのための「叩き台」になりうる点に求められる。



注目データ

尹錫悦政権の対北朝鮮政策の構造

- ビジョン：非核・平和・統一の朝鮮半島
- 推進原則：一切の武力挑発を容認せず／互恵的な南北関係の発展／平和的統一の基盤構築
- 重点的推進課題：
 - ①非核化と南北間の信頼構築の好循環
 - ②相互尊重に基づく南北関係の正常化
 - ③北朝鮮住民の人権増進と分断による苦痛の解消
 - ④開放と疎通を通じた民族同質性の回復
 - ⑤国民・国際社会とともに進める統一準備

資料：『非核・平和・繁栄の韓半島—尹錫悦政府の統一・対北政策』（統一部、2022年11月）